

令和5年度 学校経営計画・学校評価シート						高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校						
《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材			《目指すべき姿》	学校像 児童生徒像	生徒一人一人がその能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、意欲的、主体的に社会参加していくことができる人間を育成する。 ① 子どもたちが楽しく学べる学校 ② 保護者が安心して子どもを任せられる学校 ③ 地域にとってなくてはならない存在の学校 ④ 教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき組姿の概要現に	◎ ステップアップシートを最大限に活用した生徒の自立支援 ○ ステップアップシート取扱の習熟と改善、PDCAの確立 ・ 校内の学習と現場実習のPDCAの確立 ・ 生徒の社会的行動の確立とソーシャルスキルの確立 ※ SST、学級会議の開催、仲間同士の関わりの中で、人間関係の維持・形成を図る。 ○ 就労支援 ・ 作業学習の改善、職場見学、ビジネスマナー、地域の事業所での就労体験、現場実習先の拡大、新規作業種の設置準備 ○ 地域連携 ・ 地域のイベントへの参加、地域での清掃活動、ボランティア活動の推進				
	《取組の方向性》	《6つの基本方針》 ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前教育の充実 ⑥学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 《6つの基本方針に関わる横断的な取組》 ①不登校への相応的な対応 ②学校における働き方改革の推進										
《重点取組項目》												
項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】				
専門性の向上	就労による自立を目指す生徒の育成に必要な資質の向上	生徒一人一人の「実態を把握する力」及び「指導力」の向上を目指す。	【現状】 ①全教職員が企業就労や福祉的就労について、さらに研修を深めていく必要がある。 ②職業科(作業学習)等におけるキャリア教育の視点を踏まえた授業改善に取り組む必要がある。 ③心身面に課題があり、不登校傾向のある生徒が増加してきている。 ④各授業でのICT活用及び教材づくりは進んできているが、生徒が主体的に学ぶChromebookの活用(生徒間でのコラボレーション)には結びつけられていない。 【評価指標】 ①進路指導の基礎に関する理解 ・全教職員が、生徒・保護者に説明できるようになる。 ②キャリア教育の視点に基づいた授業づくり・授業改善 ・職業科(作業学習)において、重点的に取り組む。 ③不登校傾向・登校渋りの解消・低減 ・生徒、保護者への適切な支援に取り組む。 ④ICT機器(Chromebookや電子黒板等)の有効活用 ・生徒間のコラボレーションを意識した授業づくり	①企業就労や福祉的就労についての学習会を開催する。 ②授業づくり・授業改善に活用できるよう、「キャリア教育戦略会議」を開催し、企業及び事業者から、本校の作業学習等の授業における改善点について年間2回の助言を受ける。 ③生徒の現状を教師間で共有し、学校全体で支援方法を検討していくとともに、SC、SSWとの連携を図りながら、生徒や家庭への継続的な支援を行うことで、不登校傾向や登校渋りを解消又は低減を図っていく。 ④Chromebook内のアプリケーションソフト(Jamboard,Spreadsheet等)を有効に活用し、生徒の発信力や分析能力、課題解決能力の向上を目指す授業を行っていく。また、教師のICT機器活用能力の向上のために、GIGAスクールサポーターによる授業参観を依頼し、授業でのICT活用への助言を受ける。	B	①教職員対象に企業就労や福祉的就労についての学習会を開催することができた。 ②企業組合と連携を行い、本校の作業学習等への助言を受ける場の設定を検討している。 ③生徒の現状や支援の仕方等については、学校全体で情報共有を行うことができている。また、SC、SSWの活用についても積極的に行うことができている。 ※登校渋り対応事業:3件 ④県のGIGAスクールサポーターを活用しながら、教員対象にChromeBookの活用方法の研修を実施することができた。	①進路指導部を中心に進路指導に関して教職員へ情報提供を行い、更なるスキルアップを目指す。 ②「キャリア教育戦略会議」を2学期中に行う。 ③引き続き、不登校の未然防止、登校渋りの解消に向けての取組を継続していく。 ④継続して県のGIGAスクールサポーターを活用しながら教職員のChromeBookの活用方法のスキルアップを目指す。また、授業での活用方法の情報共有を行う。	B	①進路指導に関する学習会の開催等により、全教職員が企業就労や福祉的就労についての基礎的な知識を身に付けることができた。 ②「キャリア教育戦略会議」を年間2回予定していたが、1回だけしか実施する事ができなかった。 ③不登校傾向・登校渋りのある生徒への対応は、学級・学年を中心にSC、SSWを活用しながら行うことができた。 ④GIGAスクールサポーターを活用し、Chromebookや電子黒板の活用方法について研修をすることができた(年:11回)。授業内での活用もできつつある(Jamboardの活用等)。	B	・保護者を対象とした進路学習会は、ぜひ実施してもらいたいとの話があった。 ・「キャリア教育戦略会議」の開催時期については、昨年度と同様に遅くなっているの2学期までには開催することが必要と思われる。 ・不登校傾向や登校渋りのある生徒への対応はSC、SSWを活用しながらできている。 ・Chromebookの活用については、少しずつできるようになってきている。 ※目標がある程度達成できているので「B評価」でいいのではないかとと思う。	①進路指導に関する学習会は、教職員のスキルアップを目指し今後も継続して行っていく。また、保護者対象の進路学習会の実施について検討を行っている。 ②「キャリア教育戦略会議」の開催時期・内容については年度初めに計画を立て、より充実したものとしていく。 ③不登校傾向のある生徒への対応については、今後も学級担任を中心としながら、SC・SSWを活用した取組を進めいく。引き続き情報共有を行い、生徒への支援につなげていく。 ④GIGAスクールサポーターと連携を深めながら、ICT機器の活用能力の向上につなげていく。
		キャリア教育の充実	生徒一人一人のニーズに応じた職業教育を系統的に実施し、将来の職業生活や社会生活に必要な力を育成する。	【現状】 ①生徒の希望する就労先への就労はほぼできているが、一般就労率が目標とする80%に届いていない。また、直近3年間の離職率が上がってきている。 ②JSP制度の活用により、2事業所・1専門学校から専門家の派遣を受け、生徒の職業能力の向上に資することができている。 ③現場実習後に事業所からの評価を受け、生徒自身が次の目標(ステップ)を設定し、その目標を達成するための教師側の指導・支援の構築が行われている。 ④入学者の増加を見越して、新規作業種の再検討が必要である。 【評価指標】 ①希望進路の100%確定(一般就労率を80%)及び離職率の低減 ・実習・進路先の確保(新規開拓)及び情報提供 ・アフターケアの適切な実施 ②生徒の職業能力(知識・技能等)の向上・維持 ・職業科(作業学習)の授業改善(専門家からの助言) ・技能検定:1級取得15名以上、アビリンピック入賞:5名以上 ③ステップアップシートの有効活用 ・学級と作業班の情報共有及び指導体制の確立 ・ステップアップシートの利便性の向上(シート改良) ・開示シートによる情報共有(生徒・保護者) ④SDGs等の視点を取り入れた授業づくり(各教科等) ・環境教育、国際理解教育への取組	①就職アドバイザーとの連携により、新規の実習・進路先の確保(50件以上を目指す)に努めるとともに、進路に関する情報提供(「進路だより」の発行)を年間5回以上行う。また、「高等部卒業生へのアフターケア事業」を積極的に活用し、卒業生の就労先への訪問を行うことで、聞き取り調査等を行っている。 ②JSP制度の活用を継続し、職業科(作業学習)において、外部専門家による評価(ソーシャルスキル、ワークスキル)を受けることにより、さらなる職業能力の向上及び維持につながる授業改善に取り組む。技能検定等での級や賞の取得で取組の成果を検証していく。 ③個々の生徒の職業能力上の強みや課題をステップアップシートに整理するとともに、学級及び作業班でその情報を共有し、学級活動や作業学習等において、統一した指導・支援に取り組む。また、進路相談支援部を中心に、各学級担任等が、シート全体の構成や生徒・保護者への振り返り表の利便性を検証し、より良いものに改善していく。 ④社会科、英語科等の各教科、特別の教科道徳、特別活動等において、SDGs等に関する内容を年間1回以上計画、実施する。	A	①8月末現在における、新規の実習・進路先の確保は、18件となっている。(新規開拓22件)また、卒業生へのアフターケアについては、適宜、行うことができている(8月末現在で36件)。「進路だより」については、現在2回発行できている。 ②アビリンピックや技能検定に向けての練習を教育課程上に取り入れながら行うことができている。また、結果をもとに授業で般化を行い、スキルアップにつなげることができている。【技能検定1級取得(清掃部門9名、接客部門6名)・アビリンピック入賞者(金賞1名、銀賞3名、銅賞2名、努力賞1名)】 ③保護者との成績面談において、作成したステップアップシートをもとに、生徒、教師、保護者間において、生徒の実態に関して共通理解を図り、今後の指導につなげていくことができていた。作業担当とのすり合わせについては、まだ十分には行うことができていない。 ④SDGs等に関する内容の授業についてはまだ実施する事ができていない。	①引き続き就職アドバイザーと連携し、新規の実習・進路先の開拓を進めていくとともに、アフターケアにも適宜取り組んでいく。また、「進路だより」等により進路に関する情報を保護者に提供する。 ②2学期以降もJSP制度の活用により、生徒の職業能力(知識・技能等)の向上を計画的に進めていく。 ③引き続き、ステップアップシートの活用を進めていく。また、各生徒の作業学習の様子や目標について、学級担任との共通認識をさらに充実させる。 ④SDGs等に関する内容の授業について実施する。	A	①就職アドバイザーと連携をしながら、実習・進路先の開拓を行うことができた(316件:うち新規開拓41件)。アフターケアについても適宜、行うことができた(年:75件)。(令和6年2月1日現在) ・一般就労(A型を含む):81.3% ②年間を通してJSP制度を活用し、外部専門家からの助言(年:環境サービスの回、物流実務の回、フードビジネス10回)を受け、生徒の職業能力向上を図ることができ、成果として、技能検定等において多くの1級等の取得者を輩出できた。 ③ステップアップシートを活用して、生徒・教師・保護者で指導方法の方向性を合わせることができた。今後も活用しながら改善を加えていきたい。 ④外国の文化に親しむためにALTを活用した授業を実施することができた(年:2回実施)。生徒たちは、ジェスチャーを交えながら積極的に交流を行うことができていた。	A	・学校が、就職アドバイザーと連携しながら、開拓した実習、進路先の結果を子どもの進路先を検討する材料として保護者に見せてもらいたい。 ・実習や雇用の可能性があるかについては、タイミングもあるので、前年度の実績として提供することは可能と回答。 ・JSP制度では、年間4回高知みかづき分校にお菓子の作り方を教えるにきている。先生方は、一生懸命指導されていると思うし、衛生面も含め目標は十分に達成できているのではないかと思う。 ・ステップアップシートの活用ができてきているので、今後もさらに改善してってもらいたい。 ※職業能力の向上に向けて、積極的に取り組む事ができているので「A評価」でいいのではないかと思う。
学校校務項目	防災・防犯教育の充実	南海トラフ巨大地震や火災、不審者、弾道ミサイル発射への対応の見直しを行い、防災・防犯・危機管理意識の向上を目指す。	【現状】 防災・防犯訓練は実施できているが、場面想定がまだ限定的となっている。また、新たな危機に対応する訓練には取り組めていない。 【評価指標】 ①防災・防犯・新たな危機に対応する訓練の実施 ・TPOに応じた各訓練の実施 ・危機管理に関するマニュアルの改善 ②高知ろう学校との合同訓練の実施	①様々な状況(場所や時間帯)を想定し、より実践的な訓練に取り組む。訓練後は課題を洗い出し、危機管理マニュアル(防災、防犯等)の見直しを行う。 ②高知ろう学校と連携した、訓練を実施する。	B	①年3回の避難訓練を計画している。(9月・12月・2月)防犯訓練については、11月に実施を予定している。 ②高知ろう学校との合同避難訓練については、令和6年2月実施を予定している。	①引き続き防災・防犯等に係る、より実践的な訓練に取り組みながら、常にマニュアルについて検討・見直しを行っていく。 ②高知ろう学校と連携した合同の避難訓練の実施計画を2学期中に作成する。	B	①実践的な訓練のため様々な被害状況を想定して訓練を実施し、全体の動きを確認することができた。また「みかづきふれ愛フェア」に参加することができた。 ②高知ろう学校と合同で避難訓練を実施することができた。また、非常ベルや緊急放送機器の確認をする事ができた。	A	・実践的な防災訓練をすることができている。また、地域の防災活動への参加もできている。 ・備蓄品を食べる練習も取り入れてはどうかと思う。 ・給食で実施していると同答 ・高知ろう学校との合同訓練も計画できている。 ※防災、防犯に関して様々な訓練ができた。また地域の防災イベントに参加することができたので、「A評価」でいいのではないかと思う。	①「みかづきふれ愛フェア」には、継続的に参加し、地域との防災・防犯活動の充実につなげる。 ②高知ろう学校との合同避難訓練を充実させ、より効果的な訓練を行う。
		地域貢献の推進	地域における清掃活動やボランティア活動等の貢献活動を通して、働くことの意義を確立しながら、生徒の自己肯定感・自己有用感を高めたい。 また、清掃活動等の環境教育を通して、SDGsの達成にも取り組んでいる意識を育てていく。	【現状】 ①感染症対策を講じながら地域清掃等の貢献活動を実施することができている。地域住民からの感謝の言葉を受けことがあり、生徒のやりがいにつながっている。 ②清掃活動と環境教育やSDGsとの関連についての学びは不十分である。 【評価指標】 ①働く意義の理解(他者や社会への貢献) ・地域の清掃活動の継続、各イベントへの参加 ・(新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて)取組に対するアンケートの実施 ②環境問題(SDGsの視点)についての理解 ・清掃活動を通じての環境教育の実施	①地域の清掃活動やボランティア活動を実施していくことで、働くことの意義を体験を通して学ぶとともに、本校の取組をアピールし、障害者に対する理解・啓発に努める。また、地域の方へアンケートを実施し、取組の充実及び生徒の自尊感情・自己有用感の向上に努める。 ②環境問題を意識しながら、SDGsの視点をもって商店街等の清掃活動に取り組むことで、ごみの分別方法やリサイクルの重要性についての学びを深めていく。	A	①地域の清掃活動は週2回程度、実施する事ができている。(専門学校・公民館・小学校・駅周辺等)地域の方へのアンケートについては、現在、実施することはできていない。 ②環境問題を意識しながら清掃活動を行ったり、作業(フードビジネス)では環境に配慮したビニール袋を使用して生徒たちが意識できるように取り組んでいる。	①十分な感染症対策を講じたうえで、積極的に清掃活動等に取り組んでいく。 ②今後もSDGsの目標を意識した取組を各教科等で取り上げながら実践していく。	A	①地域での清掃活動を行うことができた(年:48回実施)。出張清掃先に清掃活動についてのアンケートを行い、肯定的な評価をいただいた。 ②職業科(作業学習)、家庭科において、環境教育を主体としたSDGsの取組を行うことができたが、他教科への拡大には至っていない。	A	・地域にある施設のトイレやガラス清掃などをさせていただき感謝している。また、学校と地域がその他にどのような活動ができるかを考えるためにアンケート調査を行った方がいいのではないかと思う。 ※地域の清掃活動だけではなく、地域の行事や商店街との関りがもたため「A評価」でいいのではないかと思う。
働き方改革	ワーク・ライフ・バランスを考え、健康で活性化された職場づくりに努める。	【現状】 ①分掌により業務量の偏りが見られる。各分掌内で業務の引継ぎ等ができてくつある。 ②指導案・教材等の共有化のための整理は、まだ十分とはいえない。 ③グループウェアの活用はできつつあるが、さらに効率的に活用することが必要である。 【評価指標】 ①各分掌業務の平準化と引継ぎ体制の構築 ・適切な人員配置 ・副部長職の育成(指導・助言体制) ②教材等のデータの共有財産化 ・教材データの保存方法及び活用の周知 ・活用状況確認アンケートの実施 ③グループウェアの積極的活用 ・文書収受、アンケート機能等の理解	①各分掌に配置される教員数を再検討し、業務量の平準化を図る。また、引継ぎ体制を確実なものにしていくために、副部長職への指導・助言を分掌部長及び管理職から行っていく。 ②年度当初に「共有フォルダ」の存在、保存方法(統一したファイル名の付け方等)を周知する(適宜実施もあり)。また、活用状況の確認のために保存・活用に関するアンケート(成果確認のため、年間2回)を行う。 ③グループウェアの活用方法(文書収受、アンケート等)についての学習会を開催し、全教職員のスキルアップを図る。	C	①各分掌業務の引継ぎについては、確実に行えるように副部長的なポジションを設置することができている。 ②業務の効率化を図るため、「教材フォルダ」内のフォルダやファイル名(日付・内容を記入する等)の統一に取り組んでいる。アンケートの実施についてはまだ行うことができていない。 ③グループウェアの活用はできている。また、更なる活用推進のため、学習会を予定している。	①管理職から積極的に助言を行ない、分掌業務の平準化及び業務内容の見直しを進める。 ②「教材フォルダ」の充実を進めるとともに、利便性が高まる管理に取り組んでいく。 ③グループウェアの有効活用を引き続き推進していく。	B	①各分掌の業務内容、進捗状況を共有することにより、学校全体で様々な行事に取り組む事ができた。 ②「教材フォルダ」の保存・活用は少しずつできている。特に転載した教師にとっては、本校の学習活動を確認するうえでも役立っていた。 ③グループウェアの活用については、学校全体でできるようになっていた。	B	・各分掌業務の引き継ぎは、できつつあるように感じた。 ・教材データの保存や活用についてできつつあるのて、さらに活用できるように整理していく必要がある。 それにより業務改善につながると思われる。 ※目標がある程度達成できているので「B評価」でいいのではないかと思う。	①引き続き業務の平準化・効率化に取り組んでいく。各分掌の配置人数についても年度ごとに見直しをしていく。 ②「教材フォルダ」を引き続き活用し、改善につなげていく。 ③引き続きグループウェアの活用を積極的に行い、業務改善・軽減につなげていく。	

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)